aws startups

スタートアップ向け生成系 AI 活用ガイド

AWS で生成系 AI を使用して
簡単に構築してスケールする

目次

はじめに：生成系 AI がスタートアップにもたらす可能性と将来 **3**

生成系 AI を理解する **5**

生成系 AI のビジネス機能 **7**

生成系 AI に関するビジネス上の考慮事項 **8**

生成系 AI の成功に AWS はどう役立つのか **10**

スタートアップが AWS で構築すべき理由 **11**

お客様事例 **13**

InsightFinder が成長を促進 **14**

Fraud.net が不正防止のモダンアプリケーションを構築 **15**

Mantium が低レイテンシーの GPT-J 推論を実現 **16**

Stability AI が回復力とパフォーマンスを実現し、コストを削減 **17**

Runway が社内研究インフラストラクチャをスケール **18**

次のステップ **19**

生成系 AI がスタートアップにもたらす可能性と将来

機械学習におけるパラダイムシフトの芽はもう何十年も前から存在していましたが、スケーラブルなコンピューティング性能が利用可能になったことやデータの急増、また機械学習技術の急速な進歩により、どの業界のお客様もビジネスの変革を進めています。OpenAI の ChatGPT や Google の Bard などの生成系 AI ツールは各方面から注目を集め、投資意欲は高まる一方です。

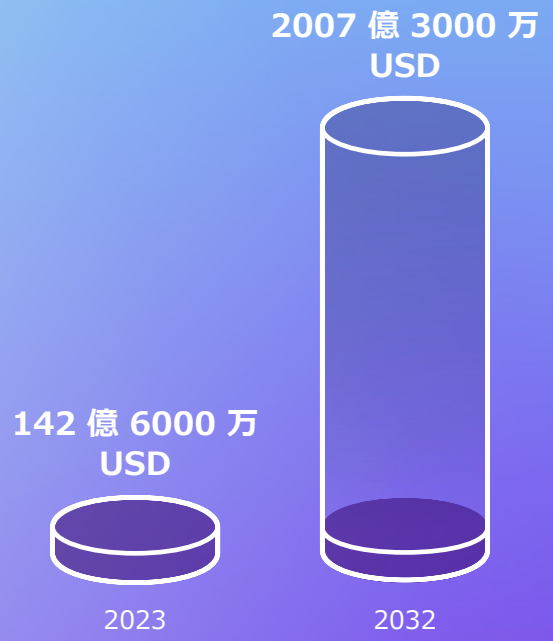
2023 年 3 月の PitchBook のレポートによると、多くのベンチャーキャピタリスト (VC) は、暗号通貨やブロックチェーンなどの他の技術革新への投資に冷静さを見せています。VC による資金調達は、全体として 2023 年第 1 四半期に前年比で 53% 減少しているものの、生成系 AI はそれに当てはまりません。2022 年だけでも、この分野への投資は 21 億 USD に達し、2020 年と比較して 425% 増加しました。[1] 2023 年を通して、テキストベースの生成を専門とする大規模言語モデルのスタートアップである AI21 Labs は、シリーズ C で 1 億 5,500 万 USD を調達しました。また、データ分析プラットフォームのデベロッパーであり、独自の Lakehouse 生成系 AI プログラムを持つ Databricks は、Nvidia や T. Rowe Price などの投資家から 5 億 USD を超える資金を調達しました。さらに、医療向けの生成系 AI コパイロットのデベロッパーである Corti は、2023 年後半にシリーズ B で 6,000 万 USD 調達しました。[2]

生成系 AI の実証済みの利点を考えれば、これら VC の投資額も驚くものではありません。スタートアップ創業者は、このテクノロジーを活用することで、市場投入までの時間の短縮、イノベーションの促進、カスタマーエクスペリエンスのパーソナライズ、コストの最適化を実現できます。AI が生産性を高めてくれると既に確信している 60% のビジネスオーナーの仲間に加わるときがきています。[3]

この日本語ガイドは、生成系 AI ソリューションをビジネスに統合することに興味を持っているスタートアップリーダーの方々を対象にしています。生成系 AI を活用しているスタートアップの事例と、さまざまな段階にあるスタートアップが生成系 AI ジャーニーにおいて Amazon Web Services (AWS) を選択している理由をご紹介します。まずは、この技術の基本を見ていきます。

生成系 AI のグローバル市場

市場は 34.2% の CAGR で成長すると予測[4]



aws startups

[1] 「Vertical Snapshot: Generative AI」、PitchBook、2023 年 3 月
[2] Robbins, J.、「Generating less momentum? Generative AI deal count dips in Q3」、PitchBook、2023 年 10 月
[3] Haan, K.、「24 Top AI Statistics and Trends In 2023」、Forbes、2023 年 4 月
[4] 「Generative AI Market」、Polaris Market Research、2023 年 1 月

戦略的インペラティブ

業界を問わず、世界中のスタートアップが生成系 AI を活用して、イノベーションを加速し、従業員の生産性を向上させ、創造性を刺激し、ビジネスプロセスを最適化しようとしています。

しかしながら、ほとんどのスタートアップにおいて、これらのメリットを達成するための道筋は依然として不明瞭です。

創業者のほとんどが、生成系 AI への投資の必要性を認識しており、競合他社に優位性を奪われないよう、その投資を迅速に行う必要があると考えています。しかし、このテクノロジーをどのように導入し、どこで活用し、どのように成果を達成し、測定するのか、そのための戦略を策定できている組織はほとんどありません。

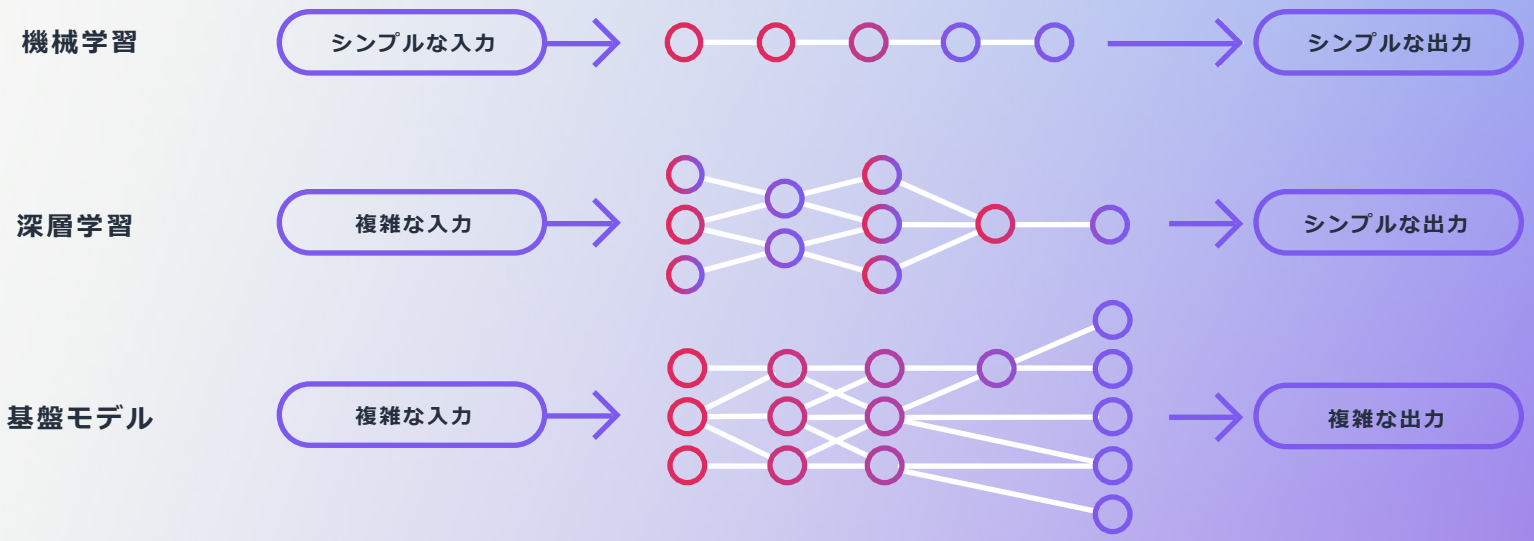
この先のページでは、スタートアップが生成系 AI のビジネス価値を今すぐ実現し、市場に遅れをとらず、競合他社に先んじる方法をご紹介します。

生成系 AI を理解する

スタートアップが生成系 AI のビジネス価値を最大限引き出すためには、このテクノロジーがどのように機能するのかを基本的に理解することが重要です。生成系 AI とは、会話や物語、画像、動画、音楽など、新しいコンテンツやアイデアを生成できるアルゴリズムを表す用語です。生成系 AI は、膨大な量のデータで事前にトレーニングされた非常に大規模な機械学習モデルを利用しています。これらは一般的に**基盤モデル (FM)** として知られています。

従来の形態の機械学習では、数値などのシンプルな入力を受け取り、予測値などのシンプルな出力にマッピングすることはできました。深層学習の登場により、動画や画像のような複雑な入力を受け取り、比較的シンプルな出力 (画像に猫が写っているかどうかなど) にマッピングできるようになりました。生成系 AI を使用すると、膨大な量の複雑なデータを活用して、より高度な方法で知識を取得して提示できます。例えば、長いドキュメントを要約して貴重なインサイトを抽出するなど、複雑な入力を複雑な出力にマッピングできます。

テキストベースの生成系 AI システムでは、**大規模言語モデル (LLM)** と呼ばれる特定の FM のタイプを使用します。LLM は、コードの記述、数学問題の解決、対話の実施、質問に回答するためのドキュメントの情報の分析といった、複数の領域にまたがる幅広いタスクを実行できます。

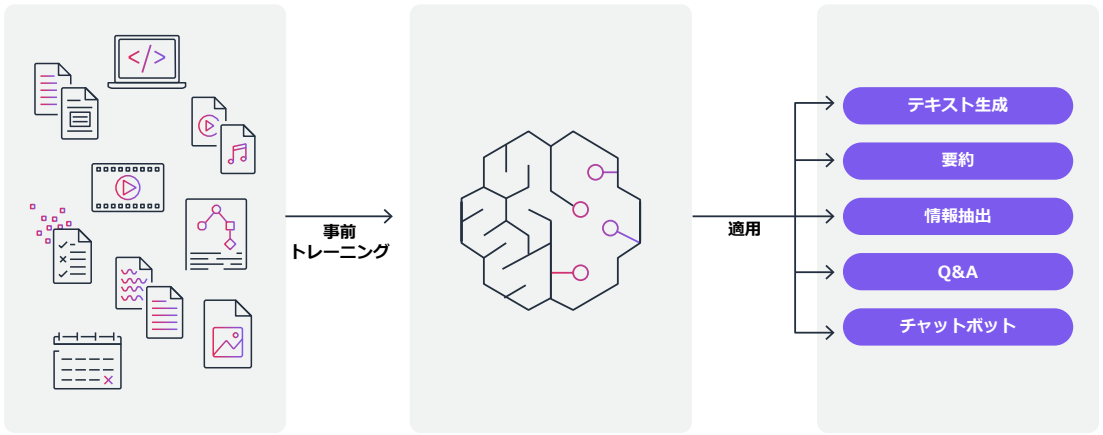


データで差別化する

個別のビジネスニーズに合った生成系 AI アプリケーションを構築する場合は、スタートアップが持つデータが戦略的資産になります。FM は、スタートアップ独自のデータを使用してカスタマイズおよびファインチューニングできるため、「そのまま使える FM」と比較して、より差別化されたエクスペリエンスを提供できます。 例えば、買い物客の好みを追跡したい食料品チェーンは、FM をカスタマイズすることで、より優れたレコメンデーションエンジンを作成し、競合他社のサービスとの大きな差別化を図ることができます。

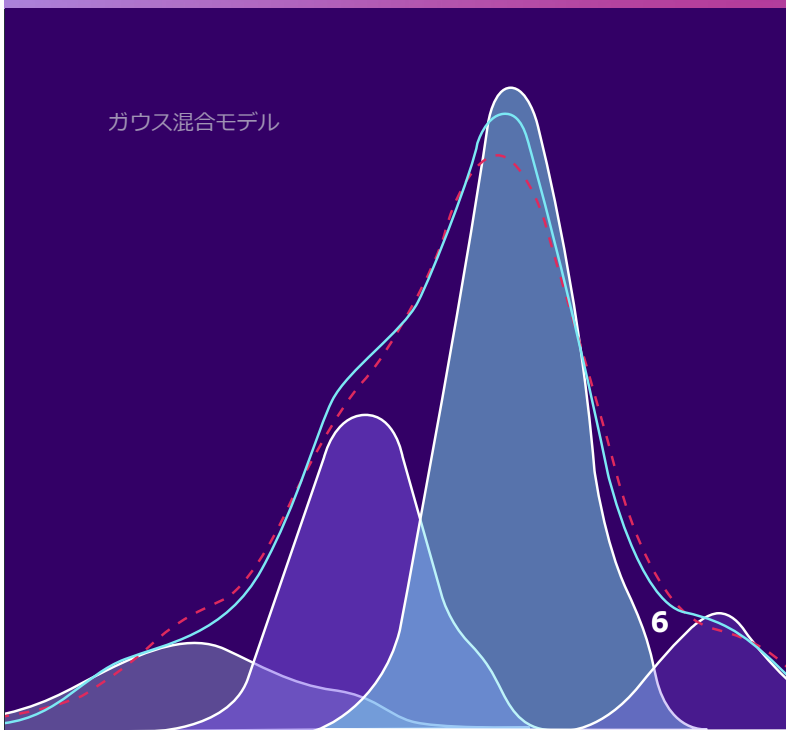
スタートアップはまた、カスタマイズした FM を使用して、ブランドのトーンやスタイルを体現する独自のコンテンツを簡単に作成することも可能です。例えば、社内回覧用の日次アクティビティレポートを自動生成する必要があるフィンテック系スタートアップは、過去のレポートを含む独自のデータを使用して FM をカスタマイズできます。こうすることで、FM はこれらのレポートをどのように読み取るべきか、またどのようなデータを使用してレポートが生成されたかを学習します。それにより、ビジネスニーズをよりよく反映したレポートを作成できるのです。

生成系 AI の仕組みを大まかに理解したところで、次は、生成系 AI をスタートアップでどのように活用できるかについて詳しく見ていきましょう。



生成系 AI の歴史 :

今日の FM は、AI のイノベーションの長い歴史の上に構築されており、生成系 AI アプリケーションの作成にも使用されています。生成系 AI の能力を持つ最も初期のモデルには、隠れマルコフモデル (HMM) とガウス混合モデル (GMM) の 2 つがあります。どちらも 1950 年代に開発されました。HMM は、既知のデータを使用し、経験則に基づいて、未知のデータを予測します (例えば、カードプレイヤーの結果に基づいて、プレイヤーが不正を行っているかどうかを予測します)。GMM は、データ群 (音楽プレイリストなど) とその中のサブグループ (ジャンルなど) を調べ、未知の情報 (「これはラップの曲だ」など) を推論できます。どちらも現在でも使用されています。



生成系 AI のビジネス機能

さまざまな段階にあるスタートアップが、生成系 AI を使用して生産性を向上させ、以下のような多くの方法でビジネス価値を生み出しています。

イノベーションと創造性
提案を受け取り、プロトタイプの生成して、革新的なコンセプトを探求

コード生成
AI コーディング支援サービスの **Amazon CodeWhisperer** によりデベロッパーの生産性を 57% 向上[5]

コンタクトセンター分析
顧客との通話を要約してインサイトを抽出

パーソナライズ
パーソナライズされたレコメンデーションを改善し、カスタマイズされたコンテンツを生成

バーチャルアシスタント
人間のような対応でカスタマーエクスペリエンスを向上

会話型検索
あらゆる企業情報からインサイトを抽出

コンテンツ生成
テキスト、画像、動画、音楽を作成

生成系 AI の歴史：

初期の生成系 AI のもう 1 つの例は、1964 年から 1966 年にかけて MIT の教授が開発したチャットボット (以前は「チャターボット」と呼ばれていた)、ELIZA です。その名前の由来となった、Pygmalion と My Fair Lady の Eliza Doolittle のように、このプログラムは人間とのやり取りから学び、より洗練されたプログラムになっていきました。ELIZA を一躍有名にした実験では、ユーザーが患者の役を演じて、精神科の初回診断を行うセラピストを模倣させました。

[5] Amazon CodeWhisperer プレビュー期間中に Amazon が実施した「生産性チャレンジ」から収集したデータ

生成系 AI に関するビジネス上の考慮事項

スタートアップにとって最も有用な生成系 AI の機能を特定し、ビジネスプロセスに導入するための戦略を策定する際には、異なるニーズに合わせた生成系 AI アプリケーションの作成に使用する FM を決定する必要があります。

また、FM をサポートするために使用するインフラストラクチャを慎重に検討する必要があります。モデルは、パフォーマンス要件を満たすコスト効率の高いインフラストラクチャを使用することでメリットを得られます。

生成系 AI アプリケーションの作成に使用する FM を評価する際には、以下を提供するモデルを探しましょう。

1. セキュリティとプライバシーが組み込まれた生成系 AI アプリケーションを簡単に構築してスケールするための方法
2. 独自のモデルをトレーニングし、推論を大規模に実行するための高性能で低コストのインフラストラクチャ
3. 作業の完了方法を変革する生成系 AI 搭載アプリケーション
4. 差別化要因としてのデータ

責任ある AI、セキュリティ、プライバシー

FM は、その広範でオープンな性質から、開発サイクル全体での責任ある AI の懸念事項 (精度、公平性、知的財産 (IP) への配慮、ハルシネーション、有害性、プライバシーなど) の定義、測定、緩和について、新たな問題を提起します。例えば、公平性の問題を考えてみましょう。医師を指す代名詞として、彼と彼女を同じ割合で振り分けるように、LLM に求めることができるでしょうか。 プロンプトで医師がひげを生やしていると書かれていた場合でも、この条件は適用されるでしょうか。 また、他の職業についても同様にすべきでしょうか。 WNBA (Women's National Basketball Association) についてはどうなるでしょうか。 LLM のコンテキストで公平性を単純に定義することは困難で、新しいアプローチと解決策が必要であることがわかります。

生成系 AI のテクノロジーとその使用方法は進化を続け、新しい課題が生じ、さらなる注意や対策が必要になるでしょう。そのような課題に取り組み、イノベーションを促進するために、**学術界、産業界、政府機関のパートナー**は協力して、生成系 AI が責任ある AI として非公開かつセキュアな方法で進化を続けるよう、新たな解決策やコンセプトを模索しています。

データのプライバシーとセキュリティもまた、責任を持って生成系 AI をスケールするために不可欠です。モデルをカスタマイズしてファインチューニングする段階では、スタートアップはデータがどこで、どのように使用されているかを把握する必要があります。プライベートデータが公開モデルのトレーニングには使用されておらず、顧客データが非公開であることに確信を持つ必要があります。スタートアップは、ビジネスアプリケーションに当然のものとして、セキュリティ、スケーラビリティ、プライバシーを最初から組み込んでおく必要があります。

ブログ記事「Responsible AI in the Generative Era」を読む
詳細はこちら ›

生成系 AI の歴史 :

2014 年、最初の敵対的生成ネットワーク (GAN) の開発は、生成系 AI における最大のブレークスルーの 1 つとなりました。GAN では、2 つのモデル (「ジェネレーター」と「ディスクリミネーター」) がゼロサムゲームの中で競い合います。ジェネレーターは本物に徐々に近づけて偽物のコンテンツを作成する一方、ディスクリミネーターは競合相手のテクニックを分析して偽物をより適切に識別します。AI を使用して他の AI をトレーニングするというこの新しいアプローチは画期的であり、GAN 自体がデジタル画像の新しい時代を切り開くことになりました。

生成系 AI の成功に AWS はどう役立つのか

AWS を利用することで、スタートアップにおける生成系 AI のビジネス価値を最大限に引き出すことができます。アプリケーションの革新、まったく新しいカスタマーエクスペリエンスの創出、かつてないレベルの生産性向上が実現し、最終的にスタートアップを変革できます。

経験と専門知識

AWS の主なメリットの 1 つは、20 年にわたる集中的な投資を通じて蓄積してきた豊富な AI における経験があることです。実際、現在 10 万以上のお客様が AI に AWS を利用しています。

AWS の牽引役である Amazon は、機械学習機能を e コマースのレコメンデーションエンジンの強化や、フルフィルメントセンターのロボットピッキングルートの最適化などに活用しています。さらに、機械学習は Amazon のサプライチェーン、予測、キャパシティプランニングにも活用されています。

深層学習は、Amazon Prime Air のドローン配送システムや、Amazon Go で活用されているコンピュータビジョン (CV) テクノロジーにも採用し、顧客が商品を選んだら従来の会計をせずに店舗を出られる革新的な購入体験を実現しています。また、Alexa は 30 種類以上の機械学習システムでサポートされており、毎週数十億件もの顧客の幅広いタスクを支援しています。

AI は、数千人の専任の機械学習エンジニアを擁する Amazon と AWS の資産にしっかりと織り込まれており、これからも未来を形作っていくでしょう。

10 万

を超えるお客様が現在 AI に AWS を利用

スタートアップが AWS で構築すべき理由

あらゆる段階にあるスタートアップが、多くの理由から、AWS 上で生成系 AI やその他のアプリケーションを構築することを選択しています。お客様からのフィードバックに基づいて、AWS 上で構築する主なメリットをいくつか示します。

セキュリティとプライバシーが組み込まれた生成系 AI アプリケーションを構築してスケールする最も簡単な方法

Amazon Bedrock は、最も簡単に FM を使用して生成系 AI ベースのアプリケーションを構築しスケールできるサービスです。Bedrock を使用すると、**Amazon Titan** FM や、AI21 Labs、Anthropic、Cohere、Stability AI、Meta などの業界をリードする AI 企業のモデルを API 経由でアクセスできるようになります。Bedrock を使用するお客様は、現在利用可能な最も柔軟でセキュアなクラウドコンピューティング環境として設計されている AWS のメリットを活用できます。フルマネージドの **Agents for Amazon Bedrock** を使用すると、自社のナレッジソースに基づいて最新の回答を提供したり、幅広いユースケースのタスクを完了したりできる生成系 AI アプリケーションを簡単に開発できます。

生成系 AI のための最も高性能で低コストのインフラストラクチャ

AWS は長年にわたり、機械学習ワークロード向けに最高レベルのパフォーマンスとコスト最適化を実現するシリコンの開発に投資してきました。その結果、**AWS Trainium** と **AWS Inferentia** において、クラウドでのモデルのトレーニングと推論の実行にかかるコストを最小限に抑えました。この能力をお客 A 様が活用するための **Amazon Elastic Compute Cloud** (Amazon EC2) インスタンスも開発しました。例えば、Trainium を搭載した **Amazon EC2 Trn1** インスタンスは、トレーニングのコストを最大 50% 削減します。[6] 一方、AWS Inferentia2 を搭載した **Amazon EC2 Inf2** インスタンスは、推論あたりのコストを最大 40% 削減します。[7]

差別化要因としてのデータ

AWS では、スタートアップのデータを戦略的資産として簡単に使用して FM をカスタマイズし、より差別化されたエクスペリエンスを構築できます。汎用の生成系 AI アプリケーションと、お客様のビジネスや顧客を真に理解しているアプリケーションとの違いは、データにあります。また、最も包括的なデータと AI サービスのセットにより、AWS 上の FM をお客様のデータで安全にカスタマイズし、お客様のビジネス、データ、顧客に関する専門のモデルを構築できます。

作業の完了方法を変革する生成系 AI 搭載アプリケーション

AWS は、お客様が生成系 AI を使用して作業を完了する方法を変革する強力な新しいアプリケーションを構築しています。**Amazon CodeWhisperer** でコーディングを効率化し、**Amazon QuickSight Generative BI** でビジネスインテリジェンスを簡素化し、**AWS HealthScribe** でヘルステック系スタートアップの臨床効率を向上させるといった、目的別の対話型エージェントによって生産性を高めます。セキュリティ、プライバシー、責任ある AI を念頭に置き、容易にカスタマイズし、既存のデータソースやアプリケーションに統合できるため、スタートアップは面倒な作業を行うことなく生成系 AI を迅速に活用できます。

スタートアップ向けの責任ある AI に関する詳細はこちら：

生成系 AI に関するその他のリソース ›

その他の AI リソース ›

[6] 他の同等の Amazon EC2 インスタンスとの比較

[7] 前世代の AWS Inferentia ベースのインスタンスとの比較

AWS の生成系 AI サービス

AWS の以下のようなさまざまなテクノロジーにより、お客様の生成系 AI アプリケーションの開発が容易になります。

Amazon Bedrock ›

FM を使用して生成系 AI アプリケーションを構築してスケール。Bedrock は、以下のようなさまざまな FM をサポートしています。

- **Amazon Titan**: テキストの要約、生成、分類、オープンエンドの Q&A、情報の抽出、埋め込み、検索に使用
- **AI21 Labs Jurassic-2 Multilingual LLM**: さまざまな言語でのテキスト生成に使用
- **Anthropic Claude 2**: この LLM は、誠実で責任ある AI システムトレーニングの研究に基づいた、会話、質問への回答、ワークフロー自動化に特化
- **Stability AI Stable Diffusion**: ユニークでリアルな高品質の画像、アート、ロゴ、デザインを生成
- **Cohere Command + Embed:** ビジネスアプリケーションのためのテキスト生成モデルと、100 を超える言語での検索、クラスタリング、分類のための埋め込みモデル
- **Meta Llama 2**: この LLM は、質問への回答、読解などの自然言語タスク向けに事前トレーニングとファインチューニング済み

AWS Trainium: この機械学習モデルアクセラレーターを使用して、モデルのトレーニングを高速化することで、コストを最大 50% 削減[8]

AWS Inferentia2: このアクセラレーターを使用して、高性能な FM 推論を実行することで、推論あたりのコストを最大 40% 削減[9]

Amazon CodeWhisperer: この AI コーディング支援サービスにより、セキュリティを確保しながら、アプリケーションの開発を 57% 高速化 (個人利用の場合は無料)[10]

Amazon QuickSight Generative BI: Amazon QuickSight の Generative BI 機能により、従来のマルチステップのビジネスインテリジェンス (BI) タスクを、直感的で強力な自然言語エクスペリエンスに変革

Amazon SageMaker: このマネージドインフラストラクチャとツールにより、スケーラブルで信頼性が高くセキュアなモデル構築、トレーニング、デプロイを加速して、独自の FM を構築

Amazon SageMaker JumpStart: この機械学習ハブから、アルゴリズム、モデル、機械学習ソリューションにアクセスし、機械学習の利用をすぐに開始できます。SageMaker JumpStart を使用すると、機械学習プラクティショナーは、**公開されている FM** の幅広い選択肢からモデルを選ぶことができます。また、ネットワークから分離された環境から、専用の SageMaker インスタンスに FM をデプロイし、SageMaker を使用してモデルのトレーニングとデプロイ向けにモデルをカスタマイズできます。

[8] AWS Trainium は、同等の Amazon EC2 インスタンスと比べて、トレーニングコストを最大 50% 削減
[9] AWS Inferentia は、同等の Amazon EC2 インスタンスと比べて、推論あたりのコストを最大 40% 削減
[10] Amazon CodeWhisperer プレビュー期間中に Amazon が実施した「生産性チャレンジ」から収集したデータ

お客様事例

生成系 AI の可能性を探るスタートアップ

代表的なお客様事例

さまざまな規模のスタートアップが生成系 AI をビジネスに統合し、イノベーションを加速して競争優位性を獲得しています。ここでは、スタートアップ 4 社がこの革命的なテクノロジーを活用するにあたり AWS がどのような支援を提供しているかを紹介します。

お客様事例

InsightFinder が AWS のソリューションで成長を促進

AI を活用した予測オブザーバビリティプラットフォームのスタートアップである **InsightFinder** は、プラットフォームを利用する学生や教師が急速に増える中、スケーリングの問題に直面していました。同社には、送信されたアラートをフィルターする社内インフラストラクチャがありませんでした。InsightFinder エンジンと **Amazon CloudWatch** からのデータを接続することで、同社は重要なインサイトをすばやく簡単に受け取ることができるようになりました。

ストーリーを見る ›

aws startups

InsightFinder

「多くの AI テクノロジー企業は、ハードウェアリソースに多額の投資をしなければならないと考えています。(AWS のおかげで) 実際のところ、当社は高性能なエンジンを、適正なコストで構築できます」

InsightFinder、Founder、Helen Gu 氏

お客様事例

Fraud.net が AWS の機械学習ソリューションを使用して、不正防止のモダンアプリケーションを構築

不正・コンプライアンスプラットフォームを提供する **Fraud.net** は、多くの貸付企業や銀行、決済処理企業、デジタルコマース企業やその顧客にダメージを与えている数 % の不正率を解決するために設立されました。同社は、データの透明性の欠如が、この目標に対する最大の障壁であることに気付きました。そこで、不正データを統合して有用なインサイトを生成するための、迅速にデプロイ可能でスケーラブルかつセキュアなプラットフォームを構築しました。同社は AWS でイベント駆動型アーキテクチャを活用し、イベント数に応じてスケールアップとスケールダウンを行う機能を実現しました。また、AWS のソリューションを導入し、コンピューティングには Amazon EC2 と Lambda を、高スケーラビリティのオブジェクトストレージには Amazon S3 を使用しました。これらのソリューションは、顧客レベル、組織レベル、組織間レベルという 3 つのレベルのデータを統合、分析するのに役立ちました。

ストーリーを見る ›

aws startups

Fraud.net

「AWS のおかげで 1 秒間に数千トランザクションを処理できます。これは 3〜4 年前にはほぼ不可能でした」

Fraud.net、Co-Founder & CEO、Whitney Anderson 氏

お客様事例

Mantium が低レイテンシーの GPT-J 推論を SageMaker の DeepSpeed で実現

Mantium は、AI アプリケーションを構築、管理するためのグローバルなクラウドプラットフォームのプロバイダーであり、あらゆる規模の企業が AI アプリケーション構築と自動化を従来よりも簡単、迅速に行えるようにします。しかし Mantium は問題に直面していました。オープンソースモデルの多くが本稼働レベルのパフォーマンスを発揮するように設計されていないことです。先進的なテキスト生成を実現する GPT-J のような、トレーニング済みの生成系トランスフォーマーにとって、応答のレイテンシーは重大な障壁です。そのために本番環境へのデプロイが現実的に難しくなったり、不可能になる場合があります。Mantium は DeepSpeed の推論エンジンを活用して、最適化された CUDA カーネルを Hugging Face Transformers GPT-J 実装に追加し、GPT-J でのテキスト生成の速度を大幅に向上させました。

ストーリーを見る ›

aws startups

MANTIUM

「DeepSpeed の推論エンジンは、SageMaker の推論エンドポイントに簡単に統合できます。SageMaker ではカスタム推論エンドポイントのデプロイがとても簡単で、DeepSpeed の統合は依存関係を含めてコードを数行書くだけという簡単さでした」

Mantium、R&D、Senior Applied Scientist、Joe Hoover 氏

お客様事例

Stability AI が SageMaker で回復力とパフォーマンスを実現し、コストを削減

FM は、言語、画像、音声、動画といった領域のさまざまな下流タスクに適用できる大規模モデルですが、何千もの GPU や Trainium チップを装備したハイパフォーマンスのコンピューティングクラスターと、クラスターを効率的に使用するためのソフトウェアを必要とするため、トレーニングが困難です。**Stability AI** は、画期的なテクノロジーを開発しているコミュニティドリブン型のオープンソース AI 企業です。同社は、パブリッククラウドで過去最大級の GPU クラスターをプロビジョニングするための優先クラウドプロバイダーとして、AWS を選びました。SageMaker で管理されるインフラストラクチャと最適化ライブラリを使用することで、Stability AI のモデルトレーニングは、回復力、パフォーマンス、コスト効率の向上を実現しました。トレーニングにかかる時間とコストは半分以上削減できました。

ストーリーを見る ›

aws startups

stability.ai

「当社のオープンソース基盤モデルをさまざまな方式でスケールするうえで、AWS は欠かせないパートナーでした。モデルを SageMaker に統合し、数万人のデベロッパーや数百万人のユーザーが利用してもらえることを喜ばしく思っています」

Stability AI、Founder & CEO、Emad Mostaque 氏

お客様事例

Runway が社内研究インフラストラクチャを AWS でスケール

Runway は AWS とパートナーを組み、ハイパフォーマンスコンピューティング (HPC) クラスターをスケールし、研究インフラストラクチャを活用して Generative Suite でクラストップレベルのユーザーエクスペリエンスを実現しました。AWS でトレーニングされた Runway の Gen-2 システムは、テキスト、画像、動画クリップからまったく新しい動画を生成できます。Gen-2 は Runway のマルチモーダル生成モデルで改善され、動画生成における最先端 AI システムの大きな進歩を体現しています。

ストーリーを見る ›

aws startups

runway

「AWS は、この画期的な動画生成モデルの開発、トレーニングを支援してくれました。生成系 AI の可能性を今後も一緒に追求していくことを楽しみにしています」

Runway、Co-Founder & CEO、Cristóbal Valenzuela 氏

次のステップ

生成系 AI を使い始める

生成系 AI の概要と機能、潜在的なビジネスメリットについて理解が深まったところで、次のステップは、目的を明確に定義し、生成系 AI を活用するユースケースを特定することです。小規模な実験と、シンプルで明確な目標から始めるのが最善です。いくつかの簡単な成果を達成したら、スケールアップ、スケールアウトを始めることができます。

データの可用性、データの品質、生成系 AI に関連する倫理的な影響などの要素を確実に考慮するために、エキスパートと連携することを強くお勧めします。さらに、インフラストラクチャの考慮事項は、コスト、スケーラビリティ、エネルギー消費に大きな影響を与える可能性があるため、後回しにすべきではありません。AWS のエキスパートと連携することで、実装中の意思決定プロセスとすべてのステージにおいて貴重なガイダンスを得ることができます。

今すぐ始めましょう

生成系 AI は、数十年に一度の、最も革新的なテクノロジーの 1 つになると考えられ、人間の創造性を高め、技術革新の限界を押し広げ、アウトプットを最大化する可能性を持ちます。AWS は先頭に立って、公正で正確な AI のサービスを開発し、スタートアップが責任を持って AI アプリケーションを構築するのに必要なツールとガイダンスを提供するよう努めています。今こそ、始めるときです。

AWS で提供されるスタートアップ向けの生成系 AI の詳細 ›

© 2024, Amazon Web Services, Inc. or its affiliates. All rights reserved.